

No.191

2022.
9.30

岐阜の博物館



岐阜県
博物館協会
Gifu Museum Association

岐阜県博物館協会学習会 報告 「地域の博物館がいきいきとしてゆくために」

日時：令和4年3月24日(木) 13:30~15:00

会場：美濃加茂市民ミュージアム、参加者20名

講師：松本純子氏（文化庁文化財第一課文化財調査官）

この学習会のテーマは「地域の博物館がいきいきとしてゆくために」。博物館職員の皆さんや、そこに集う多くの方々が「いきいき」するにはどうしたらよいか？ということへの回答はなかなか難しいものです。なぜなら、簡単に課題を解決し、皆が充実して「いきいき」できる「魔法の杖」はないだろうから。ただ、発表者が11年間企画・実施に関わった文化庁主催のミュージアム・エデュケーション研修でお伝えしていることや、研修修了生の試行錯誤の中に、その手がかりがあるのではないかと思います。それらをご紹介しました。取り上げた修了生の皆さんの取組は、文化庁のWEB版広報誌「ぶんかる」の連載「いきいきミュージアム」にも掲載されています。(https://www.bunka.go.jp/prmagazine/)

まずは、博物館のもつ可能性から。我々を取り巻く世界には実は学びの種が無限に広がっています。博物館は自分の周りの広大な世界を知る「窓」であり、資料や作品、それらを取り巻く「知」が集積されています。また、博物館資料が介在することで、時を超え、空間を超え、言葉や文化の違いを超えて対話や交流が生まれます。博物館はその特性を活かして、人々や地域にとってプラスの影響を与えうる存在なのです。大東市立歴史民俗資料館の市民学芸員を紹介くださった武井二葉さんは、「私たちは年齢を重ねても、自分の好奇心を刺激する「驚異」と出会う機会を持っています。…年齢とともに未見のものは減り、なんとなく知っているものが増えていきますが、私たちはそれについて、実は何も知らないのです。ミュージアムが、そのようなモノを「よりよく見る機会」を用意することで…それぞれに「驚異」が見つかるものと

考えます。」(BackNo.009)と博物館の特性を示してくれました。大阪府立弥生文化博物館の「いにし絵てがみ」を紹介くださった中尾智行さんは「博物館はただ「知る」ためだけの場所ではなく、思いもよらない「自分」に気づき、驚きに満ちた「他者という世界」に出会える場所であることも体感してほしいかった」(No.040)といます。呉市立美術館の佐々木弓子さんは「子供の発想って面白いのね！今日は私の勉強でした」と笑う団体鑑賞サポートのボランティアさんの声と「ボランティアさんと子供たちの交流を通して見えてくるのは、美術館が作品との出会いの場であると同時に、人との出会いの場であるということ」を伝えてくれました。(No.025)上野原縄文の森の古江真美さんは、「お客様の率直な感想や疑問に気づき感じ取るため、職員全員(総務課職員やアテンダント等も含めて)で、お客様の立場に立って展示を見学し、その後展示レイアウトや展示方法…等について」自由に建設的な意見を出し合う活動を紹介くださいました。こうして「他の職員の意見を職員間で共有し、全職員が展示に関わっていくという意識の変化にもつなげています。」(No.024)

これらの事例には、地域の博物館が「いきいき」するヒントが満載です。博物館は身近な「驚異」にも気づける生涯学習の場ですが、職員もまた、学び手の一人です。前出のボランティアさんのように、何気ないつぶやきに耳を傾け、反応をよく拾うことが、自身と博物館の成長の一步につながります。また古江さんのように、職員の皆さんで、所属館の使命や問題意識を共有することが「いきいき」した活動にもつながるのではないのでしょうか。(文化庁 松本 純子)

ご支援いただいている
企業・団体

公益財団法人
田口福寿会

OKB 大垣共立銀行

JUROKU Financial Group
十六銀行

令和4年度岐阜県博物館協会 通常総会

日 時：令和4年5月27日(金) 13:05～14:00
会 場：岐阜県博物館
マイミュージアム棟3階けんぱくホール
参加者：111名（委任状を含む）

令和4年度通常総会が、5月27日に岐阜県博物館マイミュージアム棟3階けんぱくホールにて開催されました。令和2年度と3年度は書面による開催であったため、3年ぶりの現地開催となりました。

通常総会における議題は、

- ① 役員の改選について
 - ② 令和3年度事業報告及び収入支出決算の承認について
 - ③ 令和4年度事業計画及び収入支出予算の決定について
- の3議題で、賛成多数によりすべて承認可決されました。

また、総会前には、令和4年度岐阜県博物館協会表彰が行われ、岐阜県博物館の南本有紀氏が受賞されました。

令和4年度岐阜県博物館協会 会員研修会

「博物館資源のデジタル化と オープン化について」

日 時：令和4年5月27日(金) 14:00～15:20
会 場：岐阜県博物館
マイミュージアム棟3階けんぱくホール
講 師：中尾 智行 氏
(文化庁博物館支援調査官)
参加者：40名

例年は、通常総会後に県民文化講演会を開催していますが、新型コロナウイルス感染症の動向が読めず、一般県民の皆様を対象とした講演会が開催できるかどうか不透明であったため、今年には会員研修会を開催しました。講師には文化庁博物館支援調査官の中尾智行氏をお招きし、「博物館資源のデジタル化とオープン化について」をテーマに、ご講演いただきました。講演終了後には、講師や会員間での活発な意見交換が行われ、現地に人が集まるということの強みを感じました。

岐阜県博物館協会 表彰

令和2年度と3年度は現地での総会が開催できなかったため、岐阜県博物館協会表彰は個別に表彰状と副賞を贈呈するという形で行わせていただきました。表彰の様子を写真にてご報告いたします。

令和2年度表彰

可児 光生 氏(美濃加茂市民ミュージアム)



令和3年度表彰

藤村 俊 氏(美濃加茂市民ミュージアム)



守屋 靖裕 氏(岐阜県現代陶芸美術館)



(岐阜県博物館協会事務局 松島 史弥)

岐阜県博物館協会 岐阜ブロック部会 加盟館紹介パンフ制作

岐阜に来たから、そうだ、行こう！ 「岐阜駅からそう遠くない博物館」のご案内

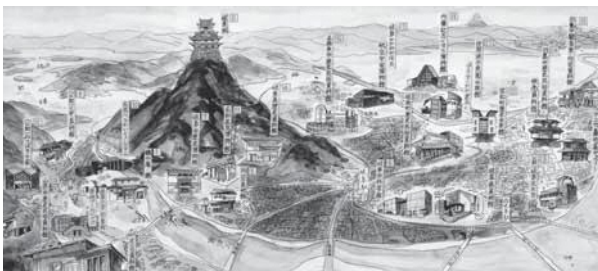
印刷：令和4年3月
部数：3000部

いま、私たちはコロナ対策として様々な配慮や制約を続けている日常となっています。そのような中でも、何か岐阜県・岐阜地区の特色を打ち出せるような活動はないものかと思案し、2021年度の岐阜ブロック活動の一環として、岐阜地区の博物館施設に焦点を絞ったパンフレットの制作を行いました。

2019年3月、私の所属する学会の全国大会を、岐阜大学が実行委員会事務局として開催したことが、この制作の‘種’になっています。全国から来てくださる参加者のみなさんへ、岐阜の街の案内やおすすめのスポットなどの情報提供をするために岐阜観光コンベンション協会のご協力を得たのですが、その際、「岐阜駅および会場である岐阜大学からちょっと足を伸ばしてもらえたら、我々が岐阜ブロックには面白い博物館がたくさんあるんだけどなあ」と思ったわけでした。

「それならば、今回いただけるようなパンフレットを岐阜ブロックでも作って、コンベンション協会さんに配ってもらうと良いのでは！」という発想の‘芽’を、相談した岐阜ブロック部会活動コア・メンバーの方々の方が優しく育ててくださいまして、昨年度末にまずは3,000部を刷ることができました。

デザインおよび作画については、岐阜大学教育学部美術教育講座の山本政幸先生と院生さんにお願いました。以前、部会活動時に岐阜県図書館の企画展で出会った岐阜の街の鳥瞰図が忘れられず、「施設を紹介するパンフのメイン・イラストは、吉田初三郎インスパイアでお願いします」などという私の我儘に、快く＆根気よくお付き合いくださり、仕上がった作品には、



とても素敵な‘花’が咲きました。このパンフレットにご関心を頂けましたら必要部数をお送りしますので、岐阜ブロック世話人・須山へ是非お申し越してください。

(岐阜大学教育学部 須山 知香)

岐阜県博物館協会学習会 「新規開館博物館の展示」

日時：令和4年3月15日(火) 13:20~15:00
場所：岐阜関ヶ原古戦場記念館セミナールーム
参加者：15名
講師：山形 隆司氏（岐阜関ヶ原古戦場記念館）
鶴飼 裕紀氏（岐阜関ヶ原古戦場記念館）
福本 雅之氏（丹青社名古屋支店）

近年、施設の老朽化により大規模改修を行う博物館が増加傾向にあります。改修に際しては、展示内容も大幅に見直されることが多くあります。そこで協会所属施設の学芸員・職員の今後の参考のために、令和2（2020）年10月21日に開館した岐阜関ヶ原古戦場記念館において学習会を開催しました。

まず記念館学芸員の兩名に「当館における展示活動への取組みについて」と題して、お話を頂きました。開館当初に常設展示を組み上げる際に工夫した点や苦心した点、その後の企画展の開催と地域連携のあり方について紹介して頂きました。次に記念館の施設コンセプト計画の策定にあたった丹青社の福本氏から「記念館設立の経緯について」と題してお話を頂きました。岐阜県と関ヶ原町が共同で策定した「関ヶ原古戦場グランドデザイン（2015年）」に基づいて記念館の基本設計が出来上がるまでの経緯について紹介して頂きました。



(岐阜関ヶ原古戦場記念館 2階展示室導入部)

今後、大規模改修を検討される協会所属施設もあるかと思っておりますので、岐阜関ヶ原古戦場記念館の事例も参考にされてはいかがでしょうか。

図書紹介

会員のお勧め図書

瑞浪市陶磁資料館 砂田 普司

『47都道府県・博物館百科』

- ・可児光生ほか 著、2022年6月刊行
- ・発行 丸善出版

本書は、丸善出版が刊行する「47都道府県・○○百科」シリーズのひとつとして、著者4名によって著された書籍です。

全323頁で、第Ⅰ部「私たちと博物館」、第Ⅱ部「都道府県別博物館とその特色」から成り、巻末には付録として博物館に関連する主な団体一覧、都道府県別博物館数、参考文献、索引が掲載されています。

第Ⅰ部「私たちと博物館」では博物館の歴史や活動、また学芸員の業務、博物館の楽しみ方、そして博物館の関連団体などを紹介し、一般の来館者が博物館を一層詳しく理解し、身近に感じることができる内容となっています。

この本を手にとって来館される方があれば、博物館の外観も観察し、写真撮影の可否を確認し、展示方法やゾーニングに留意し、周辺の博物館情報や割引券、ミュージアムグッズなどを求めるかもしれません。これらのニーズに応えられるよう、本書に目を通してサービスの充実にも注力しておきたいところです。

第Ⅱ部「都道府県別博物館とその特色」では47都道府県に約5700館あるとされる博物館のうち、考古・歴史民俗・文学などの人文系（美術館を除く）および自然史・動植物・理工などの自然系の博物館から、規模を問わず766館の施設概要などを紹介しています（岐阜県は15施設を掲載）。



インターネットが普及した昨今、各博物館の情報を得るのにさほど苦労はしませんが、各館の特徴的な展示や取り組みなど、ホームページに掲載されていない情報も含めて、短時間で気軽に情報を得ることができる

のが本書の大きな特徴です。

巻末に掲載された付録「博物館に関連する主な団体」には26団体が掲載され、「都道府県別博物館数」には人口10万人当たりの館数や全国での順位も記されるなど“知ってそうで知らない”かゆい所に手が届く情報を知ることができる内容となっています。

博物館協会 インフォメーション



4月から岐阜県博物館協会のホームページが新しくなりました。

「協会からのお知らせ」では、専門部会、各地域ブロックの活動を紹介し、協会の活動内容を共有できるようになっています。

「加盟館園からのお知らせ」については、施設ごとのIDとパスワードを発行し、各自で情報を更新できるようになりました。今年度中に、各加盟館園の情報の更新をお願いしているところです。協会のホームページが各加盟館園のホームページの窓口となっていくように、写真を掲載したり、自館のホームページへのリンクを設定したりしてください。また、この機会に協会の活動を確認したり、加盟館園の情報を閲覧し、協会や他の加盟館園とのネットワークを広げたりしていただけると幸いです。

ホームページ <https://www.gifu-museum.jp/>

編集：岐阜県博物館協会「こと部会」
発行：岐阜県博物館協会
事務局：〒501-3941
関市小屋名1989（岐阜県博物館内）
（電話）0575-28-3111
（FAX）0575-28-3110
（URL）<https://www.gifu-museum.jp/>